

東急と西武の戦後史

オンライン併用

102

【会場定員】 150名 【オンライン定員】100名 【受講料】 2年会員 2,860円 1年会員 3,218円 聴講生4,290円

短期集中 【時間】毎回16時30分～18時00分 (計3回)

概要

五島慶太と堤康次郎は、それぞれ戦後の東急と西武を率いながらさまざまな点で鋭く対立し合い、堤は五島が死去してもなお感情的な敵対心をむきだしにしました。両者の違いはどこにあったのかを思想的な視点から明らかにするとともに、次代の五島昇や堤清二・義明の時代にそれがどうなったのか、沿線のイメージはどのように移り変わったのかを、戦後史の流れのなかで解説したいと思います。

| 回 | 月/日(曜) | 会場 | 学習内容 | 講師名(敬称略) |
|---|---------|-----------------------------|--|-------------|
| 1 | 6/22(木) | 新百合 21ビル B2多目的 ホール | 戦後の東急と西武の成り立ちや、五島慶太と堤康次郎の経営哲学や思想につき解説します。 | 放送大学教授 原 武史 |
| 2 | 7/6(木) | | 五島慶太から五島昇へ、堤康次郎から堤清二・義明へと受け継がれる1950年代から60年代にかけてを展望します。 | |
| 3 | 7/27(木) | | 「西武の時代」はいかにして「東急の時代」へと変わったのかを、戦後史の文脈のなかで考察します。 | |